

第1回 南丹市環境審議会 議事録

日時：平成21年11月9日 10:00～12:00

場所：南丹市役所 2号棟 3F 301会議室

〈出席者〉

井尻委員、高井委員、田中委員、岸上委員、前田委員、原田委員、用澤委員、宮田委員、松本委員、松田委員、中川委員

(欠席：川勝委員、高屋委員、滝野委員、村田委員、谷尻委員)

〈次第〉

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 委員紹介
5. 会長・副会長選出
6. 会長あいさつ
7. 審議事項
 - 1) 環境基本計画の基本的事項について
 - 2) 策定スケジュールについて
 - 3) 基礎調査について
 - 4) その他
8. 閉 会

〈 1. 開会 ～ 6. 会長あいさつ 〉

事務局進行のもと、執り行われた。

会長には中川委員が、副会長には村田委員が選出された。

〈 7. 審議事項 〉

【 1）環境基本計画の基本的事項について 】（事務局より説明）

会 長：計画の背景について（1,2 ページ）、地球環境レベルの問題と南丹市の環境問題との間には大きなギャップがあるのでは。市の自然環境・公害問題などが、府の中でどれくらいの位置づけにあるのか。自然環境は豊かだから、物理的な破壊より、農業後継者問題などそういった事に力を入れたほうがよい気もするが。南丹市の抱えている問題を浮き彫りにし、メリハリをつける事をお願いしたい。他とあまり変わらない計画ではなく、南丹市の独自性を出していかなければならない。例えば日吉の森林組合は全国に名を轟かせており、誇れるものである。そのような、手本となるようなものを引き出すことも重要。地元について詳しい皆様から、計画の方向性を決める意見やアドバイスをいただきたい。

委 員：独自性を出すのは大事。南丹市は日吉の森林組合や、八木のバイオ堆肥など、特徴を持っている。しかし最近松枯れで松茸が採れないなど、課題も多い。今後真剣に取り組んでいかなければならない。

委 員：14 年前に枚方市から美山町に越してきた。枚方でも合成洗剤でなくせっけんを使おうという運動が市民レベルで盛んだったが、美山には地域で取り組んでいる『せっけん友の会』があり、せっけん工房もあることに驚いた。その『せっけん友の会』で活動をしている。家の前に川があるが、石にコケがはりつき魚が見えなくなるなど、14 年前の川と全く変わってしまった。都会にいたときは情報だけだったが、今は生活の中でそれを実感しており、益々せっけんの重要性を感じている。上流から泡が流れくるのだが、昔は泡が流れてくる事などなかった。粉・固形せっけんは使いにくくなかなか普及しないのが現状。今の友の会の課題となっている。

会 長：地域の活動が家庭の中に溶け込み、大きな効果があがることを期待したい。

委 員：水質汚濁や大気汚染など、昔からの公害は随分よくなっている。この 10 年余りは廃棄物対策が課題だったが、不法投棄なども法規制の強化などにより改善されてきている。変わって、現在は地球温暖化問題に力を入れている。南丹市はCO₂の伸びが大きい。特に民生系（家庭）から排出されるものが大きい。そのため、草の根的に地域でできる活動を考えており、温暖化防止活動推進委員とともに取り組んでいる。地域のリーダー（推進員）を養成して、例えば小学校や地域で授業をするなどし、啓発活動に取り組んでいる。

- 委員：京都府は議定書発祥の地でもあり、全国に先駆けて推進委員制度ができ、現在 4 期目に入った。当初は 60 名ほどだった推進委員も現在は 260 名となり、南丹地域では 31 名が活動している。各地域へ出向き、具体的な取り組み事項を紹介しながら、市民の地球温暖化防止の意識啓発のために活動している。『未来っ子支援事業』を南丹保健所の事業として一緒に行っており、南丹地域の小学校へ出向いて授業を行っている。できるだけ子供達にも地球のこと、温暖化のことを知ってもらいたい。
- 会長：今後計画を策定する上での、問題点の抽出や提案などをお願いしたい。
- 委員：京丹波町と南丹市の廃棄物処理（年間約 7,500 t）を行っている。分別が進んでいるため、ゴミは減ってきている。市民への指導・啓発は直接行っていないが、組合としては出来るだけ焼却を減らし、リサイクルなど有効利用するよう注意している。南丹には由良川水系、淀川水系の分水嶺があるので、それを生かした特色ある取り組みが重要だと思う。
- 委員：内閣府認可 NPO 環境・エネルギー・農林業ネットワークの支部を八木で立ち上げており、メンバー約 30 名である。本部は大きな事業にとりかかろうとしているが、EEFA 南丹としては、今の環境をどうしたら良くできるかを考えている。山の荒廃が一番問題。山を守らなければ田も川もよくなるし、山の手入れをすれば松茸も採れる。川は 20 年前が一番汚れていた。今は昔の川に戻りつつあるが、ビニールなどのゴミを川に捨てる人が多い。市民の手で、川や道路に捨てないよう勉強会をするのが重要。基本は「教育」「人づくり」。ゴミを捨てないという、人づくりから取り組まなければならないのでは。50 年前に戻る気持ちで（50 年前に戻すには 50 年かかる）、市民の環境教育を真剣に考えていかなければと考えている。
- 会長：環境教育という話が出たが、子供達にどういことを教育しているのか。
- 委員：環境ネットワークを立ち上げる前にキャンプを行ったが、勉強を 1 時間した後、森に入って遊ばせようとしたところ、子供達が森に入ろうとしなかった。ゲームで育った子供は、森での遊び方がわからない。しかし、子供が本来持つ能力を、森が引き出してくれるはず。自分達の子供時代を考えても、大人に教えられるというよりは、自分で考え遊んだりしていた。そういう能力を森で育ててほしいが、今の森は荒廃しており、真っ暗。陽が当たらないため、子供も遊びに行かない。雨が降ると表土が流され、がけ崩れもあつたりで山が崩壊している。手入れが行き届かずジャングル化している。50 年前は化石燃料を使わず、山の木を燃料に使っていたため山も整備されていた。必要だからこそ手入れがなされるもの。山をきれいにしよう、だけではなかなか取り組みが続かないのでは。木質バイオマスエネルギーとして利用するのも一つの方法である。エネルギー確保にもなり、山の整備もなされ、一番理に

かなっている。薪ボイラーが良いと思うが、木を使うことで山が手入れされ、使う際に発生するCO₂は山が吸収してくれる。南丹の中でそういう動きができれば、世界にも注目されるまちになるのでは。

会長：今の問題は教育とエネルギー問題だが、①南丹市全域での環境教育の場としてどれくらいの団体・グループがあるのか、どれくらい取り組みが進んでいるのか調べてもらいたい。②そしてそれをネットワーク化することが可能か。③ネットワーク化するための課題は、グループの数が少ないのであれば、どのような教育およびグループ数が必要か。提案願いたい。

また、①公教育での環境学習の実態と、②取り組みの可能性、③そういうことに取り組んでいる学校の先進事例があるのかどうか知りたい。④私立学校における同様の取り組み事例も知りたい。

委員：自然環境の変化や温暖化の実感というのは、都市部より美山のような山奥に住んでいるほうが実感できる。美山の山がものすごく変化しており、林床植物は鹿が食べないシダ類、い草類に限定されてきている。一番目立つのがシダ類で、一面に生えていて歩けないくらい。日吉も美山も同じ状況である。高い山の稜線を覆っていたクマ笹もほとんどなくなり、今は素っ裸で異常な姿になっている。また、土手のクマ笹がなくなったことで直接雨が地盤をたたき、土砂堆積で河床が年々上がっている。原因は山の荒廃。府では『美山やすらぎの川づくり』（5ヵ年計画）を立ち上げ、埋まってしまった堰堤の整備や土砂の除去などに取り組みはじめたが、このように人の手で改善しないと環境を守れない状況にあるのが現実。また、全国的な傾向ではあるが、ダム上流には土砂があふれ、下流は逆に河床がやせ、深くなっている状況。これは単独の取り組みでは限界があり、大きなプロジェクトとして、公共事業のあり方を見直すなど、変えていかねばならない。

もう一つは食害・獣害。ナラ枯れでドングリ類がとれず、鹿は食料がなくなっても同じ所で下草を食べたりする。昔は積雪で鹿の頭数は自然に調整されていたのが、温暖化の影響でバランスが変化している。下草がなくなり、山は歩きやすくなった、きれいになったと言われるが、これは実は悪いこと。京大の芦生研究林も、植生が豊かだったからこそ研究林であったが、最近では研究の価値もなくなり、再契約も危ういのが現状。こういった森林や植生に関する問題は、ごみを拾うなど、住民サイドでできることではとても及ばない大きな問題。（川の『美山やすらぎの川づくり』のように）何か対策をしていかないといけない。

会長：現状分析以外にも調査が必要。神奈川県自然環境保全センターに田村淳という研究員がおり、緑の再生の手法を研究している。このエリアで導入できるかを検討したいので、資料収集を願いたい。また、島根県の隠岐の島は鹿・

猪のいない島であり、素晴らしい林床植生となっている。今後の参考になると思うので、(事務局だけでも) 視察などを検討してはどうか。南丹市での森林環境施策として何か取り上げるべきものは。

委員：当森林組合は森林所有者を組合員とする協同組合。林業担い手の不足・高齢化問題などから、所有者に変わり人工林を適切に管理するのが仕事だが、たまたまそれが温暖化対策につながり、国からの温暖化関連の補助金も出るようになった。それと、間伐材の市場での売り上げで、ほぼ負担無しで作業できている。それが全国的に有名になった点。つまり、もともと環境を目的とした事業ではないということ。人工林は41% (全国平均40%) であり、日吉についてはほとんど整備されているが、問題は天然林、雑木(マツやナラ類)の管理。人工林は木材が売れるから採算が取れ事業が成り立っているが、雑木は販売があまり見込めず、採算が取れないため整備が困難になっている。ナラは20年以下で伐採すると、そこから新芽が出る。しかし老齢になると薪にするにも大きくなりすぎ、虫にも弱くなる。また、伐採しても次が育たない状態である。いかに木を使っていくかが重要。経済中心の人間の価値観を変える努力が必要であり、やはり「人づくり」になると思う。また、日吉の41%の人工林は高い比率だが、これは急峻な所にまで造林していることもあり、採算が合わないのも事実。人工林が多すぎると植生は乏しくなる(鹿の食害はナラ枯れもあるが、人工林の増加も原因のひとつ)。今後は、地形的に不利な人工林を天然林に変えることも必要かと考えている。

委員：南丹市の環境を守り育てる会は、市の条例に基づき、市民への環境に関する啓蒙啓発活動が目的。合併以前の園部町にも条例があり、ゴミの分別に力を入れていた結果、他の町にはないような分別が町民に行き渡っていた。南丹市になってもそれが続行しており、他から見ても分別が行き届いているという評価を得ている。また、家庭からの廃棄物には水が多く、重くなるため、水切り運動を実施したところ、重さ(トン数)が約3分の1減った。処理燃料も時間も削減でき、効果を得ることができた。

会長：“環境”という広い分野を検討するため、グループに分かれ、分科会のような形で個別に踏み込んだ検討をしてはどうか。委員の方々の活動をまとめると、大きく以下のように分かれると思う。

- ①教育(エネルギー教育含め)
- ②里山再生、農業、地域連携
- ③水を含めた身近な環境 ⇒ 今後、美山を定点として自然劣化のモニター調査を行って行ってはどうか。
- ④新エネルギーへのシフト(バイオマス、民生用の新エネルギーについて)
- ⑤天然林(雑木林)との共存・再生

⑥まちの条例およびゴミ問題

これら 6 グループの関連図・全体的な構造図を、事務局でたたき台として提案してほしい。

委員：府のモデルフォレスト協会の仲介により、八木町の森に島津製作所が年に 2 回、活動に訪れており、12 月 14 日にも約 100 名が訪れる予定。協会を通じて都会の会社に南丹市まで来てもらい、山の手入れに協力してもらう活動をしていってはどうか。南丹市として呼びかけてみたら人が集めるのでは。また農業の方面では、安心・安全の農作物を作るため、化学肥料を使わず有機肥料・低農薬で栽培した野菜、手作りで作りあげた環境に優しい商品を販売する『ロハスの駅』を立ち上げており、11 月 14 日オープンする。先日の説明会では農家から 30 名以上の熱心な参加者があった。このような農家との提携を、市として取り組んでいくことも必要では。安心・安全な食物の地産地消も、環境に優しい農業のあり方。山ばかりでなく、畑もあり、自然が整っているのが南丹市であるので、多方面からの努力が必要。

会長：松本委員の農業の話は、グループでいうと②に入るかと思う。里山再生という限定的な感じだが、農業の地域連携ということも絡め、このグループで検討するのがよいかと思う。農業については、大阪・能勢町の古嶋商店が地域および都市部と連携した、いい活動をしている。事務局でヒアリング調査を願いたい。また、最後に“人間との共生”という大きなテーマがあると思うが、これについては 6 グループでの個別検討のあと、皆で協議したいところである。

南丹市における問題（2 ページ）が本日の協議でより具体的になった。ぜひ南丹市の現状にあわせた計画策定を目指したい。また、計画の位置づけ（4 ページ）に H18 年に策定された条例を追加してほしい。他にこれまでの約 20 年間で、旧町において環境関連の計画がいろいろ策定されているはず。それらについてもまとめてほしい。

委員：委員の中に教育関係の方がいないため、教育関係者の参加を追加してもらってはどうか。教育委員会の中からお願いしたいところだが。

会長：事務局で検討願いたい。

【 2）策定スケジュール 3）基礎調査について 】（事務局より説明）

会長：文献調査については、南丹市の基礎的なデータの収集をお願いしたい。例えば林野率、耕作放棄地など、南丹市は全国や京都府と比べてどれほどの位置づけにあるのか。そのあたりが今後検討していく上での材料になる。また、市民アンケートによる地元からの視点も重要だが、外から見た客観的な視点もほしいところである。例えば大阪などの都会に住む人は、南丹市の環境を

どう見ているか、施策として何を期待しているか、など。そのような調査が可能かどうか、事務局と検討したい。

【 4）その他 】

事務局：本日の協議にあがった事項や基礎調査など、資料がまとまり次第送付する。

今後ヒアリングなどでお世話になるが、ご協力願いたい。

委員：協議資料を綴じるファイルを準備してほしい。

事務局：準備する。

< 8. 閉会 >

以上